

新春対談

今年の飼料づくりはどうするか

(出席者)

先生・北日本代表・南日本代表

昨年の飼料づくりはうまくいったか

先生 あけましておめでとう。

南、北 おめでとございませう。今年もよろしくおねがいします。

先生 昨年はうまくゆきましたか。

南 そうですね、乳価もよかったですし、牛も殖えてどうやらうまくいったのですが、牧草の夏枯れには閉口したのと、購入飼料やビートパルプの高いのがこたえましたね。夏の乳量がどうしてもあがらず、これからの冬期間が心配です。北 私の方は、珍しく連続風水害で、デントコーンは不作、乾草はだめ、根菜がマアマという収穫で、夏は何とかやれましたが、この冬は全く心配です。

先生 そりゃほんとうに大変でしたね。天候に左右されるのが農業だから、今年が良い気候が続いてほしいものですね。それにしても、天候に左右されないのが酪農ではなかったかね。

北 いや、痛いところですね。その筈なんですが――。

南 やっぱり、自給飼料の問題ですね。その選び方やつくり方がうまくないんだなあ。

先生 まあまあそう悲観することはないよ。君達はどうもくやっている方だよ。酪農はこれから農業の支柱になるものだ。悪い天候に耐え、地力を高め、年間の収入を安定させ、しかも高蛋白の食糧を生産する――だから国も今度の農業構造改善政策の中に強く畜産の振興を打ち出しているんだよ。

南 多頭飼育ですね。もう少しふやそうと思うんだ。

北 僕のところもようやく一〇頭にまで漕ぎつけたんですが――。

先生 それは良い方向だ。しかし力以上にふやしても駄目だよ。それに必要な飼料の確保――国では草地の拡大をすすめているし、同時に一人当たり、面積当たりの生産と収入があがるような工夫がいる。更に進めば機械化や省

力、つまり手間のかからぬことも考えたいね。

北 機械化は必要だなあ。しかし金がかかるね。ミルクも入れたんだが、もたとがとれるかと心配です。

先生 そりゃ機械も必要さ。設備改善もやらねばならんが、牧草づくりに徹底すれば一番安上がりで、簡単に労力を節約できるじゃないか。

南 そうなんです。何回も刈れるし、管理は楽だし、牧草は確かに有難いんだが、土地が狭いし、夏枯れに困るんです。

先生 なにも困ることはないよ。牧草なら作れる土地が遊んでいないかね。夏枯れにはちゃんと対策もあるよ。北海道での冬作物の栽培作業時間の平均は、一反当たりで、牧草が一七時間、デントコーンが三二時間、青刈えんばくが一五時間、家畜ビートが七四時間となっている……

手間のはぶける飼料作りをやろう

……青刈えんばくが最も楽だが、収量や栄養価、地力培養も考えると、やはり牧草だよ。府県ではやはり土地の広さに制限されるかも知れないが、北海道では何といっても牧草重点でやるべきでしょう。

北 どうも先生の言うことはもっともなんですけど、思いきってゆけないですね。

先生 そりゃ牧草づくりに自信がないからだよ。最近北海道でも反当一〇トの牧草をとる人が少なくないんだよ。府県では二〇ト以上とる人がある。何よりも良い反収だ。放牧をやり、乾草をつくり、グラスサイレージを作る。こういう具合に少なくとも北海道では考えて飼料計画を立てなさい。

北 そうですね、牧草だけで六反あれば、反収五千ポとしても三万ポ、成牛一頭の一年分ですね。一反一七時間としても合計年間一〇〇時間で飼料の準備ができるとすれば、こりゃ大した案ですね。

先生 ハッハッハ。そう手放して喜ぶのはまだ早いね。

反収をあげる努力と工夫がいるからね。それから北海道は冬が長いから牧草だけじゃむずかしい。年間一頭当たり二五石以上は搾らなければならんとすれば、やはり根菜としてビートかルタバガが絶対必要だよ。

牧草と根菜を組み合わせよう

北 ビートは良いですね。しかし、先生、どうも手間がかかっていませんか？

先生 その通りだね。北海道でも根菜はいらぬという人もある。しかし、根菜を喰わせると乳が出るし、家畜の健康状態が良くなるなら、やらなきゃならんじやないか。手間をかけた以上に収量をあげることだよ。手間のいる点は間引、除草、薬剤散布だね。除草では、播種直後にCIPCをまきなさい。薬剤の点では耐病系をつくりなさい。これで全く除草や葉かけをしないというわけにはゆかないが労力は大幅節約される。大事なものは苦労しても作らねばならんし、その手間を牧草の方から生みだすんだよ。

南 除草剤もすんで来ましたね。僕も利用しています。今、今の話のビートは府県ではどうでしょう。府県ではもっぱらカブを利用してはいるんですが。

先生 府県ではカブが根菜の主体でしょう。裏作ができて、多収ですからね。しかし家畜ビートも有効に利用できる。春播いて七、八月頃に逐次抜きとって与えるのです。夏枯れ対策ともなるね。

北 とこころで先生、そうすると牧草や根菜を北海道ではどのくらい準備したら理想的ですか。

一頭当たりの飼料準備量

先生 大事なところですね。余らず、不足せず、年間通じて与え、しかも栄養満点とゆきたいね。北海道では冬と夏に別けて準備しなければなりません。冬は約二〇〇日、夏は一五〇日分がある。一頭分について言えば夏はできるだけ放牧期間を長くする。つまり、集約的な放牧牧地を

一五畝(約一・五反)

これにはラデノクローバー、メドウフェスク、オーチャードグラス等を混播して、充分肥料をやれば、毎日五〇キ前後の放牧草を喰べさせても二〇〇日は放牧できる筈だ。

北 先生、しかし、ぶつつづけの放牧はむずかしいなあ。先生 そりゃそうだよ。春先、放牧直後、真夏、牧草生育のおちる時や秋口などは放牧一本では無理だね。この間をつなぐ飼料は別に少し準備しておくことさ。つまり、秋まき早春利用のライ麦、レープ、春まきの青刈えんばく、夏まきの青刈デントコーンなど二毛作を利用するんだね。これなら一頭当たり二畝(約二畝)もあれば充分だよ。

南 府県では二毛作どころか、三毛作、四毛作もやっているよ。先生 そりゃ当たり前だよ。気温にめぐまれているからね。しかしそれにしても生育の早い作物を選び、多肥栽培をすることが多毛作増収のコツだね。

南 先生、府県の話で逃げないで北海道の方のあとの話をして下さい。先生 ハイハイ。あとは北海道の冬の飼料だったね。

寒地の冬の飼料

先生 冬の飼料はやはり三本建てが乳牛の健康や生産効率の面からも良いよだね。サイレージ、乾草、根菜の三つだよ。成牛一頭当たりの一日の必要量は可食量や栄養面の釣合いから判断して

サイレージ 二五〜三〇キ
根 菜 一五〜二〇キ
乾 草 六〜八キ

は必要だ。牛の大きさでも喰う量が違うからね。これで計算すると平均反収五、〇〇キぐらいのところでは、根菜類は労力もかかるから一番良い土地に八〜一〇畝(約八畝〜一反)、乾草用の牧草地は一五〜二〇畝(約一・五〜二反)、サイレージ用デントコーン二五〜二〇畝(約一・五〜

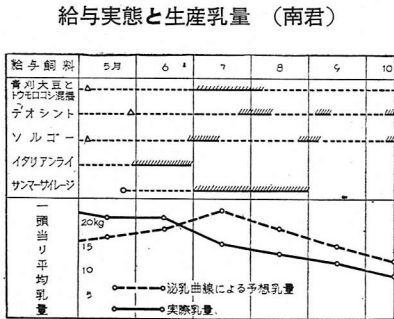
二反)を準備すれば充分と言えるね。

北 なるほどできそうですね。これで一頭当たり約六〇畝(約六反)、一頭二五石で一三万円以上の乳代とすれば、一〇畝(一反)当たり二万円余りか。

先生 とらぬ狸の皮算用はやめた方が良いでしょう。今の数字も反収をあげることに、収穫も適期に行なって栄養価満点でなければ、自給率八〇%以上とはゆきかかぬからね。

南 先生少しは僕の方の相談にものって下さいよ。先生 イヤこれは失礼、北君があまり喰い下るもんだからね。ところで君の方の昨年の結果はどうだったね。

南 これが昨年の飼料給与表と牛乳生産の記録です。



先生 オー、手回しが良いね。フーム、やっぱり前年よりは良くなりましたね。立派なものですよ。しかし君の言う通り、夏枯れだね。六月以降の乳量減がはつきりしていますね。昨年の夏期高温そのものの影響もあるだろうが、矢張り飼料の問題じゃないかな。

南 そうなんです。四、五月は水田裏作のイタリアン、えんば、ライ麦、ベッチ、れんげ等が豊富で面白ほど牛乳をしぼり今年は目標突破も可能と思っただけですが、イタリアンの三番刈り給与から量も質も不十分で目に見えてへったのです。

暖地の飼料づくり

先生 そうですか。それじゃ今年はこの時期に備えて早春まきの青刈と根菜をやってみなさい。三月早々に青刈えんばとイタリアンの混播をすると、丁度六月に入って青刈

ができ、更にこれに続けて給与するものにさつき話のあった家畜ビートの早春まきを加えたらよいね。いずれも播種して三ヶ月の日数で収穫できる。これは冷涼な時期によく育つものだよ。特に家畜ビートは糖分も豊富で嗜好もよいよ。

南 品種は何か良いんですか。

先生 暖地の場合は、貯蔵の心配はないから、早太りのパレースが良いだろう。

北 横から口を入れるようですが、府県でのサイレージはどうなんですか。

先生 勿論うまく使えるよ。特に水田地帯では水稲作付期間のために利用するんだよ。

南 私も七、八月は裏作でつくったサンマーサイレージがあったので何とか持ちこたえましたが。

先生 トウモロコシ、テオシント、ソルゴの三本立も中々忙しかっただろうね。しかし収量はあったらうね。これもテオシントは従来通りでよいとして、ソルゴとトウモロコシは、両者混播して第一回目の刈取りは生育の早いトウモロコシ、その後はソルゴを二〜三回刈取り利用することも能率的だよ。労力も節約できるしね。テオシント、トウモロコシは夏に強くて、その点では良いが、どうしても蛋白の低いね科作物だから、これがまた乳量減の原因となる。そこでこの時期に豊富なま科作物を給与するというところから最近ではカウピーの単作または混作が盛んに利用され始めて来たね。

南 青刈大豆と較べてどうでしょう。

先生 青刈大豆にも捨て難いよさはあるが、カウピーはコガネ虫の害がないこと、早害に強いこと、収量が多い等の利点があり、それに利用期間も長い作物で、丁度青刈不足の八月にも利用できるんだよ。

南 その他何か夏に利用できる有利な作物はありませんか。

先生 新しい作物では七、八月に刈取りできるタンバラ

等もあるが、これは飽くまでも季節的なツナギ飼料ですね。従来のオーチャード、ケンタッキー三一フェスク、トールオートグラス、ブROOMグラス等の他に基礎的に利用されるものとしては、耐暑性牧草のバーミユンダー、ダリグラス、パヒヤグラス等のいね科牧草や、ルーサン、ニユージーランド白クロバア等のま科牧草も逐次取り入れて牧草による省力化をはかることがこれからの大切な問題でしょう。

南 今利用しているオーチャード、赤クロバアで夏枯れに強い品種があればいいですね。

先生 品種によっては多少強いものもあるよ。例えば赤クロバアではケンランド、オーチャードでは改良オーチャード等は強い。しかし絶対的なものではないから幾らかでも強い品種を求め、更に夏枯れの誘因を排除してやることが大切で、特に灌水ができると殆ど夏枯れを知らずに周年利用も可能となりますよ。

北 飼料作物も品種をえらぶ時代ですね。ただ赤クロバアだけではだめですね。

南 そうなんだ。四倍体とか一代雑種(ハイブリッド)というようなものを利用する時代だね。機械の方はドンドン新しい機械が入っても、作物がなくてはだめだね。

先生 その通りだよ。しかし、蔬菜でも経験している通り、良い品種は良い管理をしなくちゃ、本当の力が出て来ないものだよ。もちろん普通種でも同じだが、一番大事なことは、飼料づくりが酪農の成否を左右するというところをもっと認識することだ。これがはっきりしておれば、自然増産されると思うね。

北 全くその通りです。今年こそは、放牧を手一杯やろう。冬の飼料は充分つくります。まあ見ていて下さい。

南 私も同じです。夏にこそ乳量をあげてやります。夏の畑を、先生、見に来て下さい。

先生 マア、論より証拠を見せて貰いましょう。大いに頑張ってください。ただ一言つけ加えたいのは、家畜は自然

のものですよ。無理をしてはいけません。喰わさないで乳をしぼったり、運動もさせないでとじこめたりではいけません。なるべく自然に近い状態で、自然に近い飼料をあたえるわけですが、近頃のように泌乳能力の高い牛は、いわゆる粗飼料だけでは、牛乳生産に必要な養分をとることができませんから、そこで経済を考えながら濃厚飼料を適切に補充してやることとなるので、このことも充分計算して間違いないように計画して下さい。

北、南 先生どうも有難うございました。

良い種子とは何か

種子は芽が出ればそれで満点というものではありません。

・発芽率は勿論高く均一でなければなりません

・種類や品種の形質(多収とか耐病とか、早晚性等)がよく表われるよう 遺伝的な純度の保持されているもの

・雑草種子やその他の不純物の混在がなく純度の高いもの

・種子によって運ばれる病虫害のないもの

・種子の充実がよく、水分含量も少なく、輸送や貯蔵間に生活力の低下のないもの
・等々幾多の目に見えない条件も具備したものでなければなりません。

安からう、悪からうの種子は、皆さんが警戒しなければなりません。適品種を、そして保証された種子を必ず念頭に種子を求め下さい。